

韓国国家科学技術委員会(NSTC) 改組の背景と新組織の概要

平成23年6月

JST研究開発戦略センター

海外動向ユニット



Center for Research and Development Strategy – Japan Science and Technology Agency

独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター

海外動向ユニット

韓国国家科学技術委員会(NSTC)の概要

- 国家科学技術委員会(NSTC)とは
 - 科学技術政策の司令塔機能
 - 主要業務
 - 科学技術基本計画の策定
 - 国家R&D予算の配分・調整
 - 科学技術振興政策の調整
 - 国家R&D事業の評価
 - 本会議、運営委員会の他に専門委員会、協議会にて各施策を検討
- 2011年3月末に改組。
R&D予算配分権を持つ等、大幅に体制を強化

NSTC改組の背景

- 国家R&D事業の拡大
 - 国家R&D事業費: 4.9兆Won (2003年) → 14.9兆Won (2011年)
 - R&D事業実施部門: 8省庁 (1992年) → 19省庁 (2011年)
 - R&D事業数: 266事業 (2003年) → 500事業以上 (現在)
 - 1000億Won以上の大型R&D: 11事業 (2003年) → 28事業 (2009年)
- 国家R&Dの企画立案・予算調整・評価機能の分散
 - 各省: 個別のR&D事業計画の立案・実行
 - NSTC(改組前): R&D投資の方針提示、政策の総合調整
 - 企画財政部: 予算編成、成果評価
- 事務局の体制強化、独立・公正化が必要
 - 教育科学技術部の1部門(30名程度)が兼務でNSTC事務局(改組前)を担当



国家R&Dの全サイクルを公平・公正に管理するシステムの構築および管理体制の強化が必要

韓国における科学技術政策実施体制の変遷

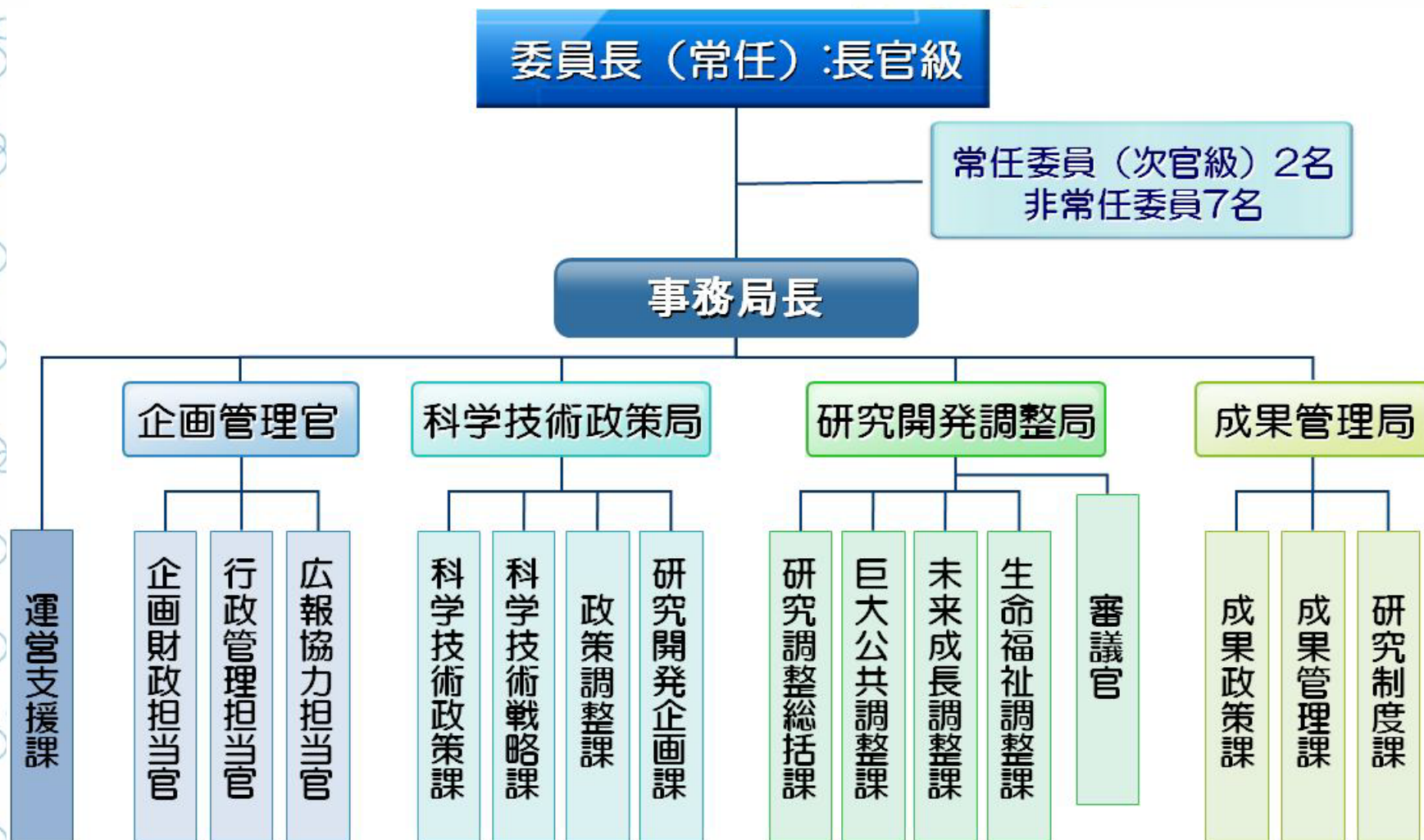
- 韓国ではこれまでも科学技術政策の実施体制を強化してきた経緯がある。
 - 1998年 科学技術部発足(庁から省への格上げ)
 - **1999年 国家科学技術委員会(NSTC)設置**
 - 2004年 科学技術革新本部設置
 - 2008年 省庁再編、教育科学技術部(MEST)発足
 - **2011年 NSTC改組**
- しかし、2008年に発足したMESTは、教育行政の方が優先度が高く、科学技術行政の体制が弱体化した、教育行政とのシナジー効果が少ないとの批判がアカデミア等からあがっていた。

	旧科学技術部 (1998)	科学技術革新本部 (2004)	教育科学技術部 (2008)	改組NSTC (2011)
NSTCの 性格	諮問委員会 (委員長:大統領)	諮問委員会 (委員長:大統領)	諮問委員会 (委員長:大統領)	常設行政委員会 (委員長:長官級)
支援 組織	科学技術部科学技術政 策室の一部	科学技術部内 105人	教育科学技術部内1部 署30人以内	独立事務局 新設(122人)
主要 機能	R&D予算検討 意見提示	R&D予算配分・ 調整、意見提示	R&D予算 配分方針提示	R&D予算配分・調整 政策調整機能強化

NSTC改組に伴う主な変更点

- 組織体制の強化
- 政策立案機能強化
 - NSTC事務局が主体的に政策を立案(従来は審議機能のみ)
- 予算配分権限の強化
 - 企画財政部: 政府全体および各省の科学技術予算を決定
 - NSTC: 個別プロジェクトの予算額(国防・人文科学を除く)を決定。政府研究開発事業の75%(2011年予算は14.9兆Won)をNSTCが決定することとなる(従来の権限は予算配分の勧告のみ)
- R&D事業評価機能の強化
 - R&D評価の専門機関である韓国科学技術企画評価院(KISTEP)を教育科学技術部傘下からNSTC傘下に移管の方向で検討中
- その他
 - NSTCの組織形態を独立の行政委員会としたため、従来通りに大統領が委員長となれなくなった。このため、元教育科学技術部長官のキム・ドヨン氏が委員長に就任

NSTCの新体制



11 0010

00 11 001010 1

11 1110 000

委員構成

- 委員長(常任):キム・ドヨン(元教育科学技術部長官)
- 常任委員:キム・チャドン(前教育科学技術部企画調整室長(次官補級))
- 常任委員:キム・ファドン(前企画財政部貿易協定国内対策本部長)
- 非常任委員:オ・セジョン(韓国研究財団理事長)
- 非常任委員:ファン・チャンギユ(同部R&D戦略企画団長)
- 非常任委員:ノ・ジョンヒェ(ソウル大生命科学部教授)
- 非常任委員:ファン・ジュホ(韓国エネルギー技術研究院院長)
- 非常任委員:カン・デフイ(ソウル大医学部教授)
- 非常任委員:イ・ヘスク(梨花女子大学教授、韓国女性科学技術支援センター長)
- 非常任委員:ヨム・ジェホ(高麗大学教授)

■ 事務局長:イ・チャンハン(前知識經濟部産業技術政策官(局長級))

NSTCの委員会構成

国家科学技術委員会

- 委員長：長官級（総理提案）
- 常任委員：次官級2（委員長提案）
- 委員7人（大統領が委嘱）
- 幹事：事務局長

地方科学技術振興協議会

- 委員長：民間専門家
- 委員：民間専門家（20人以内）

基礎科学研究振興協議会

- 委員長：民間専門家
- 委員：中央省庁上級職公務員および民間専門家（20人以内）

運営委員会

- 委員長：常任委員
- 委員：15省庁の上級職公務員および専門委員会委員長

特別委員会

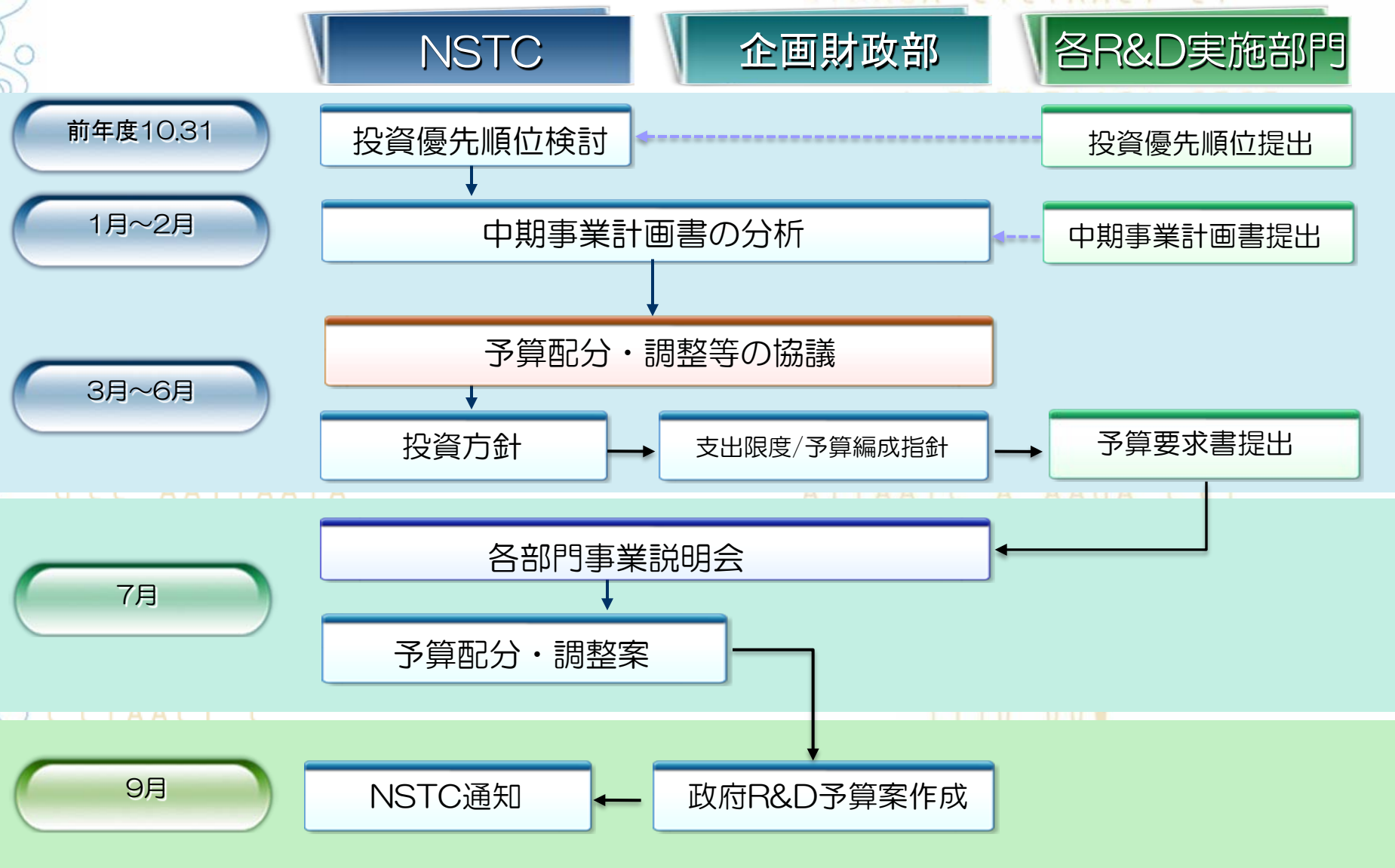
- 中央省庁上級職公務員および民間専門家

専門委員会

- 委員長：民間専門家
- 委員：民間専門家（15人以内）

政策調整	知的財産	評価	巨大公共	緑色技術	生命福祉	未来成長	産業基盤
------	------	----	------	------	------	------	------

国家R&Dの予算配分・調整プロセス



おわりに

- NSTCは今回の改組により、大幅に機能・権限を持つようになり、トップダウンでの政策展開がより実施しやすい体制となった。
- しかし、このシステムが実際に機能するかどうかは、今後の動向を見守る必要がある。
- 一方、韓国では政権が変わるたびに政策が大きく変わる。李明博大統領の任期は来年までであり、新政権がどこまで今回構築したシステムを踏襲するかは不明。

(参考)NSTC改組後の韓国政府組織図

- 韓国の国家R&D事業評価(国防等一部を除く)を一元的に担っているKISTEPをNSTC傘下への移管が検討されている

